

皆さま、よき春をいかがお過ごしでしょうか。
せ、かくの うれしい春ですから、あわただしく見越しの立ち
づらい世の中であっても、子どもたちの過ごす場は、
「ゆっくり ゆったり のどかで」あって欲しいと思います。
そのために 大人の自分は、少しでもバタバタと 忙しくても
構わないとも思っています。
その忙しさも 自分の内側の大切な出来事だからです。

二・三日前に、雨がた。ぷり 降りました。
雨が降ったら 目を輝かせて庭に飛び出していく子がいます。
カエル みたいです。
実にうれしそうで、はじけながら うっりの表情です。
そんな子も 大きくなったら、傘をさして出ていくようになります。
傘をさして庭の真中・藤棚の下...と、傘と雨とが奏でる
雨音を楽しんでいるようです。
雨が上がったなら 長ぐつで 次々と水たまりを楽しむ子、裸足
になって どろの感触を味わう子、手でねちよねちよと どろんこ
三昧の子 ...。

天気に合わせて生活を営む過ごし方 ... 「晴耕雨読」。自然と
共に過ごす いにしへの文人たちの憧れの生き方です。
興味に従い、すべてを遊びにしてみたい、それらが大切な
学びであり生活そのものである子どもたちは、より純粋
で “晴雨遊び満喫” といったところでしょうか。

「時宜に適う」「時を得る」というのは、時代や社会の望み
や願いにタイムリーということと 思っていました。それだけでなく、
「今」の瞬間にまるごと 帰依し楽しんでいる 時と共にある存在と
して生きることも そうなのだ、輝くように 無心に遊ぶ子ども
たちの姿を見て 思いました。

大人も子どもも、それぞれの「私」が 時を得た今を生きられ
たら = 「私の時間として今を生きられたら、よりゆたかな社会を
つむげることでしょう。

迎える 5月を少しでも そんな風に過ごしたい! と思いました。

園長 升光 泰雄